

# 東亞醫學

卷頭言

## 大陸醫療の適格

(一)

近來は、大陸醫療、醫療宣傳、醫療を通じての日華提携等が流行語となつて、我人ももつてこの言葉を使用する傾がある。併し乍ら少しく考へをめぐらして見るならば、これ等のことは、然く輕々に言放たるべき性質のものではない。相當以上の決意と準備と、加ふるに國家的背景を荷つて大陸に渡つて居る立派な診療機關でさへが必ずしも十分な成績をあげて居るとは云へない。血の滲む様な苦闘の後に、相當の支那人患者を集めて得て、現前に於ては稍々成績をあげて居るかに見えるものにあつてさへ、――施設等を如何にして整備擴張するか、引續き増大すべき治療患者を果して長期永久の施設をなし得るか、増大する費用を如何に賄ふか等々解決せざるべからざる難問に逢着して居ると云はなければならぬ。人道的に云へば一日も放任すべからざる程に危険にさらされて居るとも云へる衛生状態である。國策的に云へば支那民衆の信頼を我國に繋續獲得すべきは根本的必要の問題である。然るに現在大陸に進出する醫師

諸君の大部分は、日本人を相手にし、日本人の脈を見て日を暮して居る有様である。それは個人開業醫の力をもつてしては、仲々支那人にも接觸し難いからであつて開業醫としては到底治療等出来るものではない。この如き事情の中へ果して、現在内地に居る醫師或は速成の教育をさづけられて現地開業といふ様な一片の免状を持つた人達が飛込んで行つて果して何が出来るであらう。

大陸醫療の根本問題としては、

## 漢藥々局法を作れ

去る三月二十五日の滿洲國藥局方調査委員会は漢藥々局方の制定を決定したりといふ。

漢藥々局方の制定は極めて喫緊を要することであつて、支那に於ける四億餘の民衆がその健康と生命を托して居る漢藥が、何等のよべき基準も規定もなく、數百年を一日の如き紛雜錯亂の中にあることは慨はしいことである。よる

先づ現地の實情民衆の風習等を知り、彼土の言語を解して彼等に接觸し得る基礎を作ることであるがこの様な醫師といへども自由に渡來し、自由に開業してやつて行ける程な好條件は先づないものと考へなければならぬ。従つて、今日我國で最も必要なることは輿論が論議の地盤を更に押し廣めて、現實の要求する大陸醫療の何んたるかをもつと明細にして其意義や形式や内容を醫界全體の問題にする

ことである。これが明になれば中學校の教科から漢文を廢して支那語を課すべしといふ様な要求も或は又醫師に漢方醫藥を教育し漢方を復活すべしといふ要求も、大陸に渡らんとする醫師には、文化工作をなし得べき特別の訓育を施すべしといふ主張も、極めて容易に理解せらるゝものではあるまいか

べき藥局方を制定して品質の統一向上を計ることは日華提携に具體的の一階を設けることで、發表の一日も速ならんことを祈るものである。只この事業は寔に大事業であつて少數人の短時日を以てなし得べきことではない、我協會にあつても藥學部主任清水藤太郎氏の如き多年この問題に思ひをこらし既に見るべき意見をも多く發表

定價 一部十錢 送料三錢  
一ヶ年一圓二十錢(送料共)  
毎月一回一日發行  
東京市豊島區目白町二ノ一五五  
編輯發行 小柳賢一  
兼印刷人 東京市牛込區新小川町二ノ七  
發行所 東亞醫學協會  
電話牛込二七二番  
振替東京一九四三〇

## 精神の貧困を救へ

島國內に踰踏してゐる間は、その缺點も餘り、目につかないが、一度び大陸に踏み出して、その仕事の仕振りを見れば、日本人の精神の貧困に慄然たらざるを得ぬ、範圍を狭くとつて醫師について云つても、日本人醫師の大部分は人を愛するといふ精神が甚だうすい病人を勉るといふ心掛も決して厚くなく、むしろ病人を物質的に扱ひ度がる。従つて、特に支那にあつては支那人から親しまれるより恐れられる。信頼されるより警戒される。尊敬されるよりは輕んぜられる。

日本人の醫師は神を知らず、佛を知らない、純呼たる信仰心を以て、己を律し事を處理する人が少いからその仕事に地につかず、根をおろさない。自ら一日も早く引上げて日本に歸り妻子と共に暮さんことを希ふ。大陸文化工作の緒につかざるの理由の一つは實に此點にある。精神の貧困も極まれりといふべし。今にして具眼の士この貧困を救ふの根本策を立てなければ悔を後に残すべきや火を見るよりも明であらう。

精神の貧困を救ふの根本策を立てなければ悔を後に残すべきや火を見るよりも明であらう。

## 内容

卷頭言……………一  
大陸醫療の適格・漢藥々局法を作れ・精神の貧困を救へ……………二  
支那醫藥衛生事情視察報告書……………二  
教育の理想と醫療の理想……………三  
マラリアにアヂサイ……………清水藤太郎 三  
北京國醫學院訪記……………三  
中支北支の風土病瞥見……………四  
蒙疆地方に於ける藥草……………四  
大陸の健康……………中島寅男 五  
入湯と疾病との關係……………西澤生惠 五  
急性胃腸カタル鍼治驗……………柳谷素靈 六  
諸家の感想……………木下宗孝、額原基 六  
讀書餘録……………石原保秀 六  
五月例会大陸視察報告會のお知らせ……………六  
本誌購讀料納入者芳名……………七  
本協會受贈書籍……………七  
御禮……………七  
第三回東優學術講演會……………七  
大陸開發衛生展覽會……………七  
拓大漢方醫學講座講師及聽講生名簿(一)……………七  
グラフ……………八  
編輯後記……………八

# 支那醫藥衛生事情 視察報告書

## 一、支那を知れ

東京露頭盛大な見送りを受けて旅立つたのは三月五日、歸つて見れば満目の新緑である。行李草々纏つた報告書といふ譯に行かないと思ふが思ひあたるとまゝに書いて見よう。

## 二、支那の一般

先づ感ずることは、日本人の支那認識の渺いことである。筆者この點について一言を述べ資格はないのであるが敢へて言はうなら支那語を知つてゐるものがない如きそれ故に、發表される意見方策等も頗る見當を外れて居るものが多いのは眞に遺憾である。

## 三、支那各地の風土病

上海南京杭州、天津北京等の文化的大都市にはあらゆる病氣があつて、我國の文化都市を一層甚しくしたのと異ならない。其他についで云へば、中南支に於けるマラリア、河川沿岸地方の肝臓及肺臓デブ、肥大吸蟲等、山岳省地方を中心とするカラザール、各地にある下痢瀉、都市地方の結核病、蠶片蟲病等である。其他一般衛生設備及智識の低い爲に天然痘コレラ其他の傳染病が毎年發生するのはよく人の知る所である。

## 四、支那に於ける醫學

支那に於ける醫學は、西洋醫學と支那醫學とにわけて見る必要がある。醫學設備については、西醫學の方面は、支那自身の手に經營されて居るものは殆んどない。只一つ北京大學の醫學科が細々と授業を始めたにすぎない。戦争前あつたものが現在全部閉鎖されてゐる。第三國人が經營して居るのは同じく事變前までは各地に存在したが、事變の爲に學生の大部分を失ひしこと、治安の關係上、只濟南の齊魯大學が開始して居る實情である。研究所試験所としては上海の我、上海自然科學研究所、

## 五、支那の藥

支那に於ける藥は大體に於て草根木皮の漢藥屋が其の大數を占め西洋藥屋は甚だ少ない。西洋藥屋について見ると、實業を扱ふことが多く、例へば、若素と書いて、不老延年と宣傳して居る「わかも」と一等級最もよく賣れるとのことである。漢藥屋の方は銀耳、鹿茸、阿膠、人參等を看板に大々的に宣傳しウインド等にも大々的に飾り立て、あつて、それ等のものは糧食糧品の常用される向が多いといふ。不老長生の精力劑として食糧品に常用される向が多いといふ。話を観察して見ると、上海の租界内を觀察して見ると、上海の租界内は、金持が殆んど逃げこんで居るといふ關係もあつて、その様な高貴な都市では處方箋を持つて方藥買ひに来る購客が非常に多い。品物は清水藤太郎先生の兼て報導されて居る通り紛淆雜を極めて居る。そして記者位の漢藥の知識しか持つて居らないと一寸葛根湯一貼欲しいと思つても仲々購入出来ぬ状態である。藥業週報を見ると滿洲國で漢藥局法制定の機運がある由報じて居るが、中國にせめて漢藥成分及漢藥局法が暫定的にでも制定されるべきことが緊要である。旅行して感ずることは漢方は煎煮等の手数がある爲に切角服用しようと思つても、應急の間にも合はず携帯の便もない。この點は一日も速に便利化する研究がなされることを望ましい。

## 六、支那の病院

右の様な事情であるから、支那人が彼等の知識で經營して居る病院は、記者が歩いた中支北支の各地で僅かに杭州市立病院、天津市立醫院、山東民衆慈善醫院の三箇所にすぎずこの三病院の中前二者が洋醫、第三のものが漢方である。西洋醫學で經營して居る者も甚だお寒い有様で感服させられる如き點は一點もない。漢方醫學で經營して居るもの等は別に委しい參觀記を書く心算であるが問題の外である。

## 七、支那の藥草生産

藥草藥木が出るといふ話しを聞いて居たので鐵道に乗る度に窓から外を眺めても、山は禿山の岩石疊々、野は枯野原で何處に藥草木があるべしと思へない。何處か西の山峽では杏や梨の花を相當見だ。八達嶺の附近でも長城を挟んで咲く杏を見た。察南政府で聞いた話して居るがこの附近で何萬斤の杏仁が出るといふ。包頭附近の砂原では大分農民が甘草を掘つて居たがこの程度の採取者を見ると産出は何十萬斤といふ嘘な様な話である。

## 八、醫師藥劑師進出の可能性の有無

右の様な次第にて、記者の巡視した地方では事變後現在までに進出した人々は概して、在留日本人目當に仕事をせんとする人々である。醫師や藥劑師といへどもこの範疇を出て居ない。皆日本人目當に開業し、いはゞ共食ひを演じて居る。従つて大抵の地方では多すぎる程の醫師が居り藥劑師が居る現在事情では先づ割返む餘地は殆んどない。

## 九、結語

以上の諸點から要約して見るに我々の協會に於て、漢方醫學を通じて日華親善提携を計るといふ綱領を、日華親善提携を計るといふ綱領の實現の爲には幾多の基礎的準備の足りないことを痛感したのであつて、我々は先づ殆んどチャイノロジーを持つて居らぬ。支那語の習得は何よりも緊急を要することとなる第二には我東亞醫學は全部日本文の記事のみである。創刊の當初より華(三頁下段へ續く)

# 教育の理想と医療の理想

現今我國に於ける最大の悩みは理想の貧困にある。蝸牛角上の如き國內で、階級官等を争ひ、大臣にならばたとへ伴食大臣でも郷黨から孤被りの行列が上京する様な有様は、狭かつた日本時代に結構であつたかも知れない。併し足が一度海を渡り、日本のエキステンションが全亞細亞、全世界のとなつた今日にあつては、青少年の理想が官位榮達蓄財財限にあり、官位榮達したもので、一代巨富をなしたものを、錦衣歸郷等と、郷黨がさわぎ、一流デヤリナリズムが太鼓をたたく様な低い國民理想を植付けられて居る國民は災なる哉である。このことが大陸に於ける我工作上の缺點となつてあらはれる。

醫者もこの範圍を出ることは出来ない。理想よりも現實である。詩を作るより田を作れである。先づ金をためたがるのも宜なりである。然して又名譽を望み學位を欲する。醫師自らが、従來の日本の醫師は餘り物質的に教育されたと告白する。一般に病人を愛し勉はるといふ様な點が甚だ缺如して居る。日本内地に於ては人々がそれになれないが、支那でそれよりも知れないが、支那でこれが直に缺點となつて反映するのである。

こう云へば國粹主義的の側の人々から、直ちに西洋文化は物質偏重であつてそれを無批判に我國がとり入れた爲にそらなつていひたると、復古的な東洋精神主義を強調するがこの見方は必ずしも正しいとは云へない。何故なら、西洋

## マラリヤにアチサイ

清水藤太郎

マラリヤの漢方治療に常山を使用することは前號にも諸先生が述べてあるが「大塚敬節氏が「漢方醫の見たマラリヤと其療法」の最後に「徳川時代の醫者の経験でアチサイの葉が常山と同じ効果があつて截瘧劑として中々効果があると云はれてゐる。これは是非試みるべき價値があると述べられてゐる」

あるが我國に産しないが之と同属の植物アマチャを古くから日本で代用してゐる。所が茲にアチサイは此アマチャと同属で葉も花も大形である。有持桂里の方輿輓に紫陽散、截瘧方六月土用前、紫陽花(アチサイ)の葉を採て陰乾し置き用ふるに臨て未と爲し其量大抵大合七に一つほどを間日の夜一服し發日の早曉にて送下すれば悪心しほどなく嘔吐をなす。但し十人の中一人は嘔吐することなく、只一二行瀉下し而して癒るに至るなり、此藥美妙にして效著し、花も效あれども葉に勝ると云ふ。是れ元と豐前の國民間より出でし方にして天下に流傳す。余が門人筑前州松岡義順の家之を數百人に試みしに效あらざるものなし、若し一度截れずんば復た投ずべし。但し十五歳以内五十歳以外はこれを用ふべからずと曰ふ。

## 北京國醫學院訪記

西城國立北京大學附屬醫院を見て、喧傳されてゐる北京大學の漢方學科について訊した處、漢方醫學科ではなく漢方藥を研究してもよいといふので、それも今迄は人がなくて全然着手して居らず、今回加東氏より加東博士が來任になり、加東氏の研究で計畫を立てる後漢方藥の研究する積りを立てる云々と聞かされ精氣をおとして居りし處、ふと途上、西單牌樓白廟胡同に「北京國醫學院」の榜柱を見て、とも角も行く、薄汚い感じのするところは民家と異らな

に於て效著し、花も效あれども葉に勝ると云ふ。是れ元と豐前の國民間より出でし方にして天下に流傳す。余が門人筑前州松岡義順の家之を數百人に試みしに效あらざるものなし、若し一度截れずんば復た投ずべし。但し十五歳以内五十歳以外はこれを用ふべからずと曰ふ。

かく云へば、得たりと既成宗教家が進出するかも知れない。併し既成宗教家が現在に於ては我々日本人の精神生活の水準にあるものであつて、大陸に進出して居る彼等は徒らに倨傲尊大であつて、支那人を相手にせず、又支那人から相手にされず、たゞ在支邦人の葬式を數へ、甚しきは宗派間の争鬭をさへしてゐるのである。既成現存宗教家の出る幕ではない。

右の如き實情の打開は實に現下の急務である教學刷新を標榜される名文相荒木大將に吾人のかける希望願求は實に此處に存する。

### 原稿募集

本誌に精彩を興へる爲、讀者諸子の奮つて御投稿を乞ふ。

教室は三室外に職員室學生娛樂室(ピンポン設備)學生招待室(茶

湯等を飲む場所)があつて恰も授業中であつた一室には十名許りの學生が小建中湯の講義を聞いて居り、他の一室では、生徒三名が診斷學の講義を受けて居る。先生は山羊髯の老人である。試みに規則書を左に掲げて見ると

あるが我國に産しないが之と同属の植物アマチャを古くから日本で代用してゐる。所が茲にアチサイは此アマチャと同属で葉も花も大形である。有持桂里の方輿輓に紫陽散、截瘧方六月土用前、紫陽花(アチサイ)の葉を採て陰乾し置き用ふるに臨て未と爲し其量大抵大合七に一つほどを間日の夜一服し發日の早曉にて送下すれば悪心しほどなく嘔吐をなす。但し十人の中一人は嘔吐することなく、只一二行瀉下し而して癒るに至るなり、此藥美妙にして效著し、花も效あれども葉に勝ると云ふ。是れ元と豐前の國民間より出でし方にして天下に流傳す。余が門人筑前州松岡義順の家之を數百人に試みしに效あらざるものなし、若し一度截れずんば復た投ずべし。但し十五歳以内五十歳以外はこれを用ふべからずと曰ふ。

- (1)宗旨 本院經中央國醫館暨北京市政府社會局備案遵照教育部暨國學館定章造就深淺中國醫藥學術養成專門高尙人材以應國家需要服務社會爲宗旨
- (2)院址 前設北京西單曉鐘把四號現遷移西單牌樓白廟胡同路北五號
- (3)學科 本院暫設醫科講室教授四年一年實習專修科講室教授二年實習一年研究班講室教授一年實習半年
- (4)入學 入醫科須有中學畢業或有相當程度及證書文件者入專修科須有高小畢業及相當程度及證書文件者入研究班須文理通順具有相當醫學程度者爲合格
- (5)報名 報名自即日記者考試前一日止每日上午九時至下午四時親到學院填寫簡明履歷繳驗畢業證書或證明文件及本人最近四寸半身照片兩張並繳試驗費二元取錄者像片證書存院備查未取錄者發還(但試驗費概不退還)
- (6)試驗 醫科及專修科學生入校應試國文其研究班須試國文及普通醫學測驗
- (7)學費 醫科及專修科每學期學費十元講義費六元雜費四元保證金十元研究班每學期學費二十元講義費六元雜費四元(保證金十元(保證金俟畢業後發還))
- (8)待遇 本院學生畢業試驗及格查給畢業證書除呈報主管機關備案外並請市政府衛生局審查合格後發給行醫證照勿庸再行考試
- (9)獎勵 本院各級學生凡一學期成績操行均在九十五分以上得免次學期學費全部惟雜費講義費仍照繳
- (10)入學程序 凡錄取各生須偕同保證人來院填寫入學證書並繳第一期學費如到期不履行規定程序者即行取消入學資格(履行時隨隨隨宣布)但既納學費無論何種事由概不發還

- 國文、日文、獨文、英文、物理
- 化學、生理學、解剖學、組織學、病理解、藥物學、診斷學、處方學、細菌學、內科學、外科學、附屬病、婦科學、附屬產科、兒科學、附屬胎生痘、眼科學、耳鼻喉科、牙科學、皮膚及花柳科學、針灸科、按摩學、附屬正骨、傳染病、精神病學、法醫學、醫學史、各科實習(傍點は實際に教授せず)
- 專修科課程
- 國文、日文、德文、英文、物理、化學、生理學、衛生學、醫經、病理解、藥物學、產科、診斷學、內科學、外科學、婦科學、兒科學、醫學史
- 研究班課程
- 醫經、內科、病理、藥物、婦科、外科、兒科、眼科、喉科、傷科、診斷、解剖、生理、組織、針灸各科實習
- 注意 除應發講義紙章外(書籍)
- (制服)(文具)概行自備
- (二頁より)文記事をと心かけて來たのであるが今日に至るまでこれを果して居らぬ。
- 第三には我々の思想は必ずしも現在の日本の理想と國策に一致して居るとは言ひ得ないこの點について、日華提携親善を口の上せる以上、自ら省みて私心を去る様にすべき點が多いのではあるまいか

# 中支北支の風土病警見

## 一、マラリア

中支南支方面に於ける最大の風土病はマラリアであつて、これについては既に前月號で報告する處あり、特に本病の治法等の發表もすんで居るので、此處には詳説をさける。

## 二、肝臓チスト

長江一帯及廣東福建等に廣くある病氣で、第一中間宿主はマメタニシ、第二中間宿主は鯉科の淡水魚である。肝臓に寄生し黄疽、消化不良、肝硬變腹水等を惹起するに至ることがある。アンチモン製劑を處方するが效果不完である。

## 三、十二支腸蟲

中支方面農村の廣汎に存在する。往々にして住民の五割近いものが有して居たと報じられて居る糞便處理の不合理から來て居る。

## 四、甲狀腺腫

石家莊山西方面其他に多く見られるが只腫れる丈にて生命の危險等を伴はない爲現在に餘り注意が拂はれて居らぬ。

## 五、下腿壞瘍

長江流域地方に多く見るがもとより良性のものであらう。微毒性のものなりや否や等も不明である。

## 六、フィラリア

### 病

長江筋一帯にあるこの病は非常に頑固な胃腸障を伴ひ慢性に移行し易い、ヤトレン、エメチン等が著效を奏す。

南支方面に多く、フィラリアバシク、クロフチ、フィラリアマレーヌ等、媒介はキユレクス屬の蚊である。

## 七、デング熱

## 八、原因不明の發熱性疾患

恐らく濾過性病原體による疾患なるべし。

## 九、長江リユーマチ

### マチ

從來長江熱とも云はれて居る。原因は不明であるがフアスト及メラニーの説によれば、住血球蟲、十二支腸蟲の侵入の際に發熱するものであるといつて居る。其他にはクキンケ氏の水腫といはれて居るものが本體をなすと考へられるものもあるが詳細は不明である。

## 十、住血球蟲病

分布は主として江南一帯特に太湖、殿山湖を中心とする水濕地、中間宿主は我國の片山貝に似たるオレコマニア貝である。セルカリアが直接皮膚に侵入し、腸間膜門脈に寄生して執拗なる胃腸障を來す。我國山梨縣に散見するものと同じである。

## 十一、アメーバ赤痢

### 赤痢

長江筋一帯にあるこの病は非常に頑固な胃腸障を伴ひ慢性に移行し易い、ヤトレン、エメチン等が著效を奏す。

## 十二、肥大吸蟲

浙江省紹興及其附近に多く中間宿主はヒラマキ貝で、そのセルカリアは藁の實に寄生し、ヒシの實を生食することによつて體內に侵入され腸に留住する水蛭位の大きさのものである。

## 十三、カラザール

### ール

江北山東から安徽省に多い原蟲はライシユアンアノバアテと云ひ、子供に多く肝臓がはれ、腹部肥大で手足が瘦細となるものである。マラリア風の發熱を伴ふものである。媒介は白蛤子といはれる蚊の一種が吸血時にうつすものである。山東省濟南附近の子供約三

## 蒙疆地方に於ける藥草

短時間の間に廣汎な各地を旅行したので、もとより充分の調査は出来なかつた。臨時政府維新政府ともに藥草といふ點まで注意は到つて居らないし、平地の農耕地方は產出としても多分のことではないものと推定される。例へば河北省の統計を見るに山林は全面積の1%を何程も出て居らないといふ。蒙疆方面では張家口の興亞院連絡部に着手された調査があつたので少々知識を得ることが出来た。蒙疆政府治下でも、併し晉北自治政府たる大同には統計其他があるが、察南の方や蒙古の方にそれが無いといふ風で今漸く入手し得たものを紹介すると

品名	産地	總額
1、甘草	九、二〇〇斤	
2、朔縣	二、〇〇〇斤	
3、懷仁	三、〇〇〇斤	
4、大同	三、〇〇〇斤	
5、杏仁	一、〇〇〇斤	
6、陽高	一、〇〇〇斤	
7、懷仁	一、〇〇〇斤	
8、郁李仁	一、〇〇〇斤	
9、懷仁	一、〇〇〇斤	
10、陽高	一、〇〇〇斤	
11、懷仁	一、〇〇〇斤	
12、大同	一、〇〇〇斤	
13、陽高	一、〇〇〇斤	
14、懷仁	一、〇〇〇斤	
15、大同	一、〇〇〇斤	
16、陽高	一、〇〇〇斤	
17、懷仁	一、〇〇〇斤	
18、大同	一、〇〇〇斤	
19、陽高	一、〇〇〇斤	
20、懷仁	一、〇〇〇斤	
21、大同	一、〇〇〇斤	
22、陽高	一、〇〇〇斤	
23、懷仁	一、〇〇〇斤	
24、大同	一、〇〇〇斤	
25、陽高	一、〇〇〇斤	
26、懷仁	一、〇〇〇斤	
27、大同	一、〇〇〇斤	
28、陽高	一、〇〇〇斤	
29、懷仁	一、〇〇〇斤	
30、大同	一、〇〇〇斤	

品名	産地	總額
1、小茴香	懷仁	一〇、〇〇〇斤
2、黃耆	大同	一〇、〇〇〇斤
3、大黃	陽高	五〇、〇〇〇斤
4、茵陳	大同	五〇、〇〇〇斤
5、大黃	大同	一〇、〇〇〇斤
6、大黃	陽高	一〇、〇〇〇斤
7、大黃	大同	一〇、〇〇〇斤
8、大黃	陽高	一〇、〇〇〇斤
9、大黃	大同	一〇、〇〇〇斤
10、大黃	陽高	一〇、〇〇〇斤
11、大黃	大同	一〇、〇〇〇斤
12、大黃	陽高	一〇、〇〇〇斤
13、大黃	大同	一〇、〇〇〇斤
14、大黃	陽高	一〇、〇〇〇斤
15、大黃	大同	一〇、〇〇〇斤
16、大黃	陽高	一〇、〇〇〇斤
17、大黃	大同	一〇、〇〇〇斤
18、大黃	陽高	一〇、〇〇〇斤
19、大黃	大同	一〇、〇〇〇斤
20、大黃	陽高	一〇、〇〇〇斤
21、大黃	大同	一〇、〇〇〇斤
22、大黃	陽高	一〇、〇〇〇斤
23、大黃	大同	一〇、〇〇〇斤
24、大黃	陽高	一〇、〇〇〇斤
25、大黃	大同	一〇、〇〇〇斤
26、大黃	陽高	一〇、〇〇〇斤
27、大黃	大同	一〇、〇〇〇斤
28、大黃	陽高	一〇、〇〇〇斤
29、大黃	大同	一〇、〇〇〇斤
30、大黃	陽高	一〇、〇〇〇斤

生以上のものあり。杏仁 四〇〇乃至七〇〇噸延慶縣を中心とし長城に沿ふ地方より出づ。大黃 一、〇〇〇噸蒙古地帯に多く農閑期に採取するものなり。芍藥 九〇〇噸蒙古地帯北方より來る。知母 一、〇〇〇噸宣化延慶縣方面より產す。結根 一、五〇〇噸宣化延慶縣方面。柴胡 一、五〇〇噸南口鎮方面。防風 一、二〇〇噸察哈爾盟地方。麻黃 一、〇〇〇噸張家口方面。蒲公英 一、〇〇〇噸宣化方面。阿片 四〇〇噸萬全一帶に產す。竹麻 五〇〇噸宣化方面。冬花 五〇〇噸察哈爾盟地方。黃芩 二、〇〇〇噸。其他に尚、黃耆車前子山山黃蘗山查子地榆等がある。この集散の經路は張家口藥業組合といふ問屋を主とする約三十人の組合があり、この組合に従属する約十五人位の買出人があつて常に原産地方に買出しに廻り駝背を利用して集荷するものである。品質等については調査は出來て居ない。(五頁より) するも天然温泉並に藥湯の種類と疾病の種類、年齢體質等によつて入湯時間の長短を定む例へば一日一回乃至三回五分とか三十分とか、或は三日に一回とか五日に一回とか嚴格に定むる事が肝腎である。尚ほ又海水浴の如きは瀉して且つ補ふ作用即ち水分は夏の熱さを瀉し、含有成分たる鹽類は身體を補ふ働きが有りますから疾病と體質に適した入浴時間を遵守する時は非常に効果があるのであります。之に反する時は疾病を増悪せしめたり新たに疾病を生じます。要するに以上の理由は皇漢醫學の陰陽虛實と補瀉の法の應用にすぎないのであります。

# 大陸の健康

北支〇〇部隊

## 中島寅男

藥劑少尉

### 一、紫圓の有難さ

白河の濁水が波をたてはじめ、黄色さの上に白い泡をボカリと湧かす様な春、楊柳が漸くに芽を伸ばしはじめた大陸の春、自分の健康を振かへつて有難いと思ふ私は、白河の水を濾過したにすぎない水道の生水をもガブ／＼のむ、自分の隊で私丈だ。それでも私は腹もこはさなければ下痢もない。

水の悪いことは支那の特色の一つである。津浦沿線は殊に甚だし。濟南から天津までの間を見るがよい。大地は悉く白い粉を吹いて居る。風化しかけた石解石の様な大地が何處までも／＼も果しなくつゞいて居る。皆鹽だ、鹽分が汲む水も、飲む水も、水と名のつくものは皆鹽辛い。五十人居れば五十人、百人居れば百人が下痢をする。赤痢様の下痢、大腸カタル様の下痢、コレラ様の吐瀉、其中にあつて私丈が不思議に下痢一つせない。秘法は何んにもない。紫圓を月一回飲んで腹掃除をして居る丈のことだ。私は自用携帯の紫圓を、急性熱吐瀉でコレラともまがふ様な兵隊に與へて幾人治したか知れない。四〇度も熱が出て下痢する吐くといふ一兵士に服用させた處即夜下痢六七行、翌日は一日粥食休養したのみで、あとは異常なく作業に従事して行つたといふ様なこともあつた。

### 二、瘡を治す

マラリアは支那の全土に在る風土病である。風土氣候になれぬ故か殊に日本人はよく罹る。その爲の哀話悲話も多いこと乍ら、鹽酸キニーネにその罪がある様だ。鹽酸キニーネは、日本人は肌合はんとしたまふが餘りよき効がない効ない癖に、日本を嫌つて近よつてくれない。私はいままで、例へば蚌早の中醫の伴の十二三日の服薬を小紫胡湯で二三日の服薬で治してやつたり、或は脈浮、四節疼痛といった様な戦友の兵隊を、葛根湯で速治したりしたのは愉快に思ひ起す。そして漢方醫藥がもつと盛んに研究され、妙く、マラリアと研究され、赤痢とか、神經痛、脚氣等に對する衛生材料が漢方藥品で充當され、こうした病氣の治療に、證によりて方を處する漢方の理論が一日も早く、軍醫部丈へでも採用されて行つたならば、いかばかりか皇軍の大體行動を容易ならしめるであらうかと感ずるのである。

### 三、中醫の印象

轉戦と云ふけれど、私共衛生部隊としては先頭に立つて劍戟の間に馳驅するといふことは殆んどない。むしろ一ヶ所に駐留して事にわたる。その爲に、南京から以北の各地に數多くの友人が出来た。勿論中醫がある藥屋がある。西醫がある。ドラム罐の風呂に入つて申譯ばかりの夕焼空を眺める時、アカシヤの枯枝をゆるがして何處を志すか鳥が群立つ時、私は、立所に健筆を揮つて「西醫今類其末

路向來民生東醫奉」といふ景氣のよい文句を示した蚌早の中醫會長宋充人さんをおもひおこす。高い額骨、廣い額、愛嬌のある山羊鬚忘れられない顔立ちだ、南京の王仲章さん隨英英さん、この二人も仲間らしい覺出の人々である。餘り上等とは云へない支那料理屋で二人して私を招待してくれた席上

## 入湯と疾病との關係

西澤生惠

先づ入湯の意義を論じ、疾病の種類と實症、虚症により入湯の可否、或は方法を定め、天然温泉或は藥湯の種類、入湯の理由を經驗時間の上よりその大要を申述して見たいと思ひます。

扱て入湯とは如何なる現象を人體に及ぼすべきものであるかを考へて見ます。第一、一、身體を温め、血液並に淋巴液の運行を可良にし新陳代謝を旺盛ならしむ。所謂氣血の運行を可良にする。次に、二、湯と身體との間に物理的現象たる交流作用が行はれ、また例へば硝子瓶の中央を豚の膀胱皮にて縦に兩分し、その一半に食鹽水を他の一半には着色水を入れる時は、食鹽水と着色水との間に交流作用が起り先づ、比重の高い食鹽水は比重の低い着色水に入り來り、着色水も又漸次食鹽水中に入り、濃度の濃厚なるものと淡泊なるものとが相平衡するまで双方より交流作用が繼續されます。此の相方の濃度が平衡せる時は相方の比重も平衡し交流作用は停止するのであります。

入湯に際しては右の様現象が湯と身體との間に起るのであります。今健康なる人が白湯の風呂に

「朝望日速和平之日、即是我們國醫、開懷歡迎先生之宴」と書いて奥深い目を、ぬれた黒さでしばたいた。あゝ南京の今は、如何にどの程度の復讐をして居ることであらう。その外徐州の孔憲謙さん、蕪湖の張球安さん、そのどの人にまつかしい思出がつかまふ。

入りますと氣血の運行が旺盛になると共に、體内の鹽分、油分等を含有せる體液は交流作用により濃度の薄き湯中に漸次流出するのであります。故に健康なる人でも長時間の入湯は元氣が消耗し疲勞するが爲に浴後身體がだるくなる、斯くの如き現象はすでに經驗された方もあらうかと存じます。

民間の一部に於ては、つとにひね風呂（水を取變へず）にそのまゝ三日四日と續けてたてる風呂は、薬だと稱して實行されつゝあるのは寔に理のある事であつて、それは多人數の身體より流出する體液を増し仰和状態に達するに至るによつて風呂の湯は漸次、濃度を増し仰和状態に達するに至るに到ります。然るが故に體液の比重や濃度と同等の平衡状態はそれ以上には達し得ないが、體液と風呂の邊との間に交流作用が生ぜず體液が流出する現象がなくなり、入湯により元氣をそそぎ、こなる事なくして身體を温め氣血の運行を良好ならしむるが故に體液の弱冷症の方所謂虚症の方や老人には薬になるのであります。これに反して新湯（白湯）は虚症の方や老人には有害でなるとなれば前記の如く濃度の薄き新湯中に鹽分

油分その他の成分を含む體液が交流作用によつて流出致しますので入湯中或は浴後少しの間は温かなる爲に一時的に氣分良好なるも、前記の體液が失なはれる結果、元氣が消耗し漸次身體が衰弱して行くのであります。多期ですと之れが爲に浴後、寒氣をより強く感じたり。風邪を引き込んだりするのであります。然るが故に虚症の方や御老人は換言すれば冷症の方は家庭に於ける場合は、ひね風呂もよいと存じます。それよりも鹽風呂の方が結構であります。即ち吾人の體液よりも濃度の高い鹽風呂を作るのであります。然る時は體液を流出消耗する心配なく、反つて交流作用が逆作用して體内に鹽分が入り來る爲、身體が温まり新陳代謝は旺盛となり、湯冷めする事なく、且つ元氣が出て來るのであります。その上に汗や痰を除去する時は非常に速かに疲勞を除去せしむる事が出来るのであります。私は特に冷症の婦人病の灸治に之の法を説明し實行をお勧め申上げ嚴格に入湯時間、回数等を病状と體質により指示し少なからず効果をあげて居ります。尚ほ又投薬に於ける場合も又同じであらうと信ずるものであります。此に反して實症の人は新湯がよろしいのであります。此の理を投薬の服用法の方面から觀察致しましてもよく判るかと思ひます。藥の成分たる陽性、陰性の種類及配合量等により多少の例外もあつますが、古人は實症の場合は煎じ方を早くして水分を多くして薬成分の濃度を薄くして飲ませしめ、虚症の場合は長く煎じて薬成分の濃度を濃厚にして水分を少なくせしめる傾向があります。又、散薬丸薬等を用ふる場合多き等から考へても領ける事が出来る等存じます。（薬は内皮に直接作用せしめ、鍼灸、入湯は外皮に直接作用せしめ、申す事は申すまでもない事であります）

四、入湯時間と回数

白湯の場合には實症は長く虚症は短くするを原則と（四頁へ續く）

あります。温泉療法の場合はその時の病状に適應する天然温泉にその人の體質に適應した時間を規則的に嚴守する時は顯著な効果をおさめる事が出来るのであります。之に反する時は必ず結果悪く、死期を早めたり或は數日にして死の轉機をとる事さへあるのであります。

尚ほ實例を申上ますれば古來各地に於て初秋、川の出水の際、鱈、鯉等が多く流下する時心得ある者は皆味噌を赤子の頭大に丸めて焼き之を嚼りつゝ、終夜腰まで水に入り四手網を以て前記の流下する魚類を捕ふる風習があります。若し此等の漁夫にして焼味噌を嚼りつゝ兩脚より交流作用によつて流出する體液、即ち鹽分や油分等を補はないで居ります時は、忽ち疝氣を起して目的を達せる事が出来ず申上るべき事なればならぬのであります。此れ等は右の學理を實證する實例の一部であります。斯の如く熱慮致しますれば致す程、天地の法たる泉瀆療法は實に奥深いものである事を益々痛感せしめられるのであります。

今入湯と疾病との大要を表にして見ますれば次の如くであります

一、入湯 不可なるもの、熱病（法定傳染病）除虚症の病人等可良なるもの、右の病を除いた病人

二、天然温泉或は藥湯の種類 實症の病人は陰性の天然温泉（例へば黄泉）、白湯或は陰性の藥湯に入湯せしむ

虚疾の病人は陽性の天然温泉（例へばナトリウム泉）或は陽性の藥湯に入湯せしむ

三、入湯の温度

病人は實症、虚症にかゝらずあまり熱からざる湯が可なるも特に陽實症の精神病の如きは水浴最も効果あります。

# 急性胃腸カタル鍼

柳谷素靈

患者は三十七歳の婦人である。天婦羅と昆布巻その他の食ひ合せによつて猛烈な吐下を來し、且つ疼痛がある。一般醫の注射によつて少しは緩解されど數時間を經過すれば又痛み出すと云ふ譯で患者は非常に苦痛を訴へるのである。又、散薬水薬を飲んでも胃に納まらず、直ぐ吐いてしまふと云ふ状態なので鍼治を乞ふて來つたのである。

往診するに脈や、數、多少浮んでゐるやうで強を感じた。腹は軟緩で處々按壓によつて疼痛ある位で別して緊硬硬結物を觸るゝことは無い、背視するに肩部及膈俞、肝俞、脾俞の邊に少しく膨滿を見る、壓するに疼痛ありと云ふ、志室穴部は定型的に壓痛を感ずると云ふ。

之に對して先づ肩部、背部の穴即ち天樞、曲垣、秉風、膈俞、肝俞、脾俞、志室に瀉法を目的に刺鍼を試みた。刺鍼するに從つて患者は嘔吐感を減じ、次に中脘穴、天樞穴、氣海穴に又陰陵泉、三陰交に引いて全く輕快になつたと云ふので第一日はそれで中止した。翌日再び往診するに昨夜は重湯に半熱粥を頂き別して嘔吐がなかつたが、昨夜は頭痛がひどくて寢られなかつたと云ふ、そこで、外山穴に引いて、次に天樞、膈俞、天柱に刺し頭痛緩解せりと云ふので、第一日の如く肩背の刺鍼を了し、梁丘、三陰交、豐隆に刺した。梁丘穴は左のみを用ひたが、これは腹中深く鍼響があつたと云ふ。

も、漢藥の藥理的方面を研究致し度き意向であります。東亞醫學協会の話をなし、御盡力下さる事を御願ひ致し置きますが、尙、正式に貴協會より、東亞醫學誌、其他書類を御贈呈下さつて、御盡

## 讀書餘錄

——癰の奇效方——

石原保秀

癰に就ても亦針灸載の外、解熱逐邪解毒の套劑が應用され、更に「歴試歴效妙不可言」(方輿輟)の超世散(黑龍散)や、稻生若水の類秘方や、片倉鶴陵の忍多丸其他のあることは、豫て御承知の通りである。が亦行同様に頗る簡單で確效あるものとしては、先づ椒葉一味の單煎を擧げることが出来る。即ち伊澤蘭軒は其醫談に於て「椒葉は癰疽の奇藥だ」と明言して居るが、藤田謙造、渡邊敬甫の兩氏に據れば、其生根の煎服も亦可なりだとある。

の重症も、二十日受合ひにて、此藥一品にて膿をよく吸出し、膿盡くれれば直ちに肉を上げ、絶奇絶妙と自負す。乃ち受け見れば、露蜂房一味を半は炒り、半は生にて細末にし、之を一日に三匁宛酒にて服せしめ、癰上へは醋にて溶を附けるなり(中略)。大和町に山田重助と云ふ舊識あり、背上に癰發し大熱絶食、老人故に精氣減じ、膿潰する勢ひも無く、坐とり堅硬にて痛苦忍び難し、是れ幸ひなりと右の藥を法の如くして與ふ。其熱は即時に退き、食氣出で、一月

餘もかゝるべしと思ふ程の重症、膿盡き肉生じて、十八日にして癒たり。其後此方のみにて、數十人皆大效を奏し、衆醫の手を束ねて困りしも多分治す。奇方と云はざるべけんや。右の露蜂房の末、口熱齶齒に、中より細末を含み、外へは醋にて痛所へ附けさせて即效あり輕症は含むのみにて宜し云々」(繼興醫報第七號)

是れ即ち蕪園が、濟衆救世の爲特に世に廣めんとした記載である。其人と爲りに見るも、初めから充分信を措くに足りるものである。蕪園は例の狂歌の中興者唐衣橘州の子であり、其廉潔の例話は文部省の編纂に係る尋常小學の修身書にも出て居る程だから、定めつ御馴染の方も多いことであらう

## 諸家の感想

寺下 宗孝

「東亞醫學」の創刊號拜見心から共鳴致します。私も數日前吳佩孚將軍と會見歸京致したばかりですが、現地で「醫學」に依り中國人救濟之如何に根本的必要を痛感致す處であります。御必要あらば、現地の状況の一端も御話申上げませう。折角、御發展を切望致します。

貴會益々御發展の段質し率ります。先般、北支、支部設立に付き盡力せよとの御手紙により、今度長女、北京崇貞女學園入學致すに付、同伴、北京を訪問、東亞醫學誌上にて拜見の北京東華藥房主、糸川直樹氏を訪問致しましたが、丁度青島出張にて、歸宅までが御會ひ出來ず残念でした。しかし幸な事に、今度設立された北京大學醫學院の藥理學教室に、教授として京城帝大より加來天民博士來任されました。同氏は京城帝大の石戸谷氏と共に居られた方で、小生も城大時代によく存じて居りまして、訪問會致しました。同氏

の重なり、二十日受合ひにて、此藥一品にて膿をよく吸出し、膿盡くれれば直ちに肉を上げ、絶奇絶妙と自負す。乃ち受け見れば、露蜂房一味を半は炒り、半は生にて細末にし、之を一日に三匁宛酒にて服せしめ、癰上へは醋にて溶を附けるなり(中略)。大和町に山田重助と云ふ舊識あり、背上に癰發し大熱絶食、老人故に精氣減じ、膿潰する勢ひも無く、坐とり堅硬にて痛苦忍び難し、是れ幸ひなりと右の藥を法の如くして與ふ。其熱は即時に退き、食氣出で、一月

餘もかゝるべしと思ふ程の重症、膿盡き肉生じて、十八日にして癒たり。其後此方のみにて、數十人皆大效を奏し、衆醫の手を束ねて困りしも多分治す。奇方と云はざるべけんや。右の露蜂房の末、口熱齶齒に、中より細末を含み、外へは醋にて痛所へ附けさせて即效あり輕症は含むのみにて宜し云々」(繼興醫報第七號)

是れ即ち蕪園が、濟衆救世の爲特に世に廣めんとした記載である。其人と爲りに見るも、初めから充分信を措くに足りるものである。蕪園は例の狂歌の中興者唐衣橘州の子であり、其廉潔の例話は文部省の編纂に係る尋常小學の修身書にも出て居る程だから、定めつ御馴染の方も多いことであらう

## 五月例會大陸視察報告會

期 日 五月二十日(土)午後六時より  
場 所 拓殖大學講堂 會場費 三〇錢

兼て大陸の醫學衛生情況視察の爲中支北支に派遣せられて、旅行中なりし本誌編輯主幹小柳賢一氏は使命を果して五月二日凱旋致しました。現地の新鮮な報告をお傳へ致します。醫療關係者の綜合視察は本誌が先鞭をつけた爲に、現地軍當局の支援により蒐集したる資料を共覺します。自由質問にも應じます奮つて御出席下さい。

**本誌購讀料納入者芳名**

東京	金子 正義氏	同	橋詰 正義氏	同	宮本守太郎氏	同	金秀 屹氏	同	植木勇次郎氏	同	中村了助氏	同	伊藤健次氏	同	河内省一氏	同	林煥 德氏	同	武井 嘉縣氏	同	岡部 祐次氏	同	友安 鏡子氏	同	六浦 篤丸氏	同	坂本 菊枝氏	同	重本 武男氏	同	野口 紘氏	同	海野 こう氏	同	井上 眞道氏	同	三上 平太氏	同	本多 亮一氏	同	神奈川	本多 亮一氏	同	謙昌氏	同	林 晴世氏	同	鹽月 精一氏	同	館野 軍二氏	同	都志藤三郎氏	同	大阪	都志藤三郎氏	同	林 琴明氏	同
----	--------	---	--------	---	--------	---	-------	---	--------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	--------	---	--------	---	--------	---	--------	---	--------	---	--------	---	-------	---	--------	---	--------	---	--------	---	--------	---	-----	--------	---	-----	---	-------	---	--------	---	--------	---	--------	---	----	--------	---	-------	---

**御禮**

今回當協會機關紙「東亞醫學」編輯主幹小柳賢一を特に中支北支に於ける醫藥衛生情況の視察並びに資料蒐集の爲現地に派遣致しましたる處、在支各方面の各位より絶大の御支援御指導を得ましたことは洵に感謝の至りであります。御蔭を以て、豫期以上の收獲をあげ去る五月二日無事東京に歸着致し、得たる知見を以て兼て企圖する大目的に向つて邁進致す體勢にありますれば、協會今後の活動に御期待下され度存じます。先は本紙上を以て御禮申上ます。

昭和十四年五月十五日

**東亞醫學協會**

東亞醫學 第四號 昭和十四年五月十五日

神の日本社  
療海 三月號四月號  
大日本治療師會  
月刊人間醫學 四月號五月號  
人間醫學社  
藥業週報 每號  
藥業新聞社  
草藥新聞 每號  
草藥新聞社  
名古屋藥報 每號  
名古屋藥報社  
◎藥業週報にては五月より漢方特輯欄を設け、本協會政治部役員吉田一郎氏及賛助員伊澤凡人氏が健筆を奮つて藥劑師に漢方醫學の智識を普及徹底を圖つてゐる。

**第三回東優學術講演會**

去る五月四日(木)正午より、内幸町仁壽講堂に於て開催本協會理事の講演次の如し。東亞醫學協會研究より皇醫胃腸藥が發賣され業界専らの評判で試薬中の成績良好のもの申込多數である。開會の辭 子安 理事

**拓殖大學漢方醫學講座講師及聽講生一覽 (昭和十四年度)**

**講師 (イロハ順)**

氏名	現住	住所
大塚 敬郎	現住所牛込區市ヶ谷	船河原町六、電話牛込三五二二三
龍野 一雄	本郷區弓町一ノ二六	電話小石川五三五九
矢數 道明	牛込區新小川町二ノ七	電話牛込二七七二
柳谷 素靈	葛飾區下小松町七七二	
有道 品川	北品川三ノ二	電話高輪一二六七
木村 長久	本郷區上富士前町一	電話大塚五一三八

齋藤理事長  
一、漢方醫學の沿革概要 大塚 敬節氏  
一、東亞醫學協會の結成と使命 矢數 道明氏  
一、漢方藥の特長と鑑別法 木村 長久氏  
一、鍼灸藥と漢方醫學 柳谷 素靈氏  
一、漢方藥販賣上の知識 矢數 有道氏  
一、昔の漢方藥今の漢方醫學 龍野 一雄氏  
一、東亞醫學協會研究所の設立に就て 清水藤太郎氏

**大陸開發衛生展覽會**

◎日本赤十字社主催、拓務厚生兩省後援の下に東京府、市共同に迄芝公園第五號地赤十字博物館内に、大陸開發衛生展覽會を開催する由。本協會宛招待狀來る

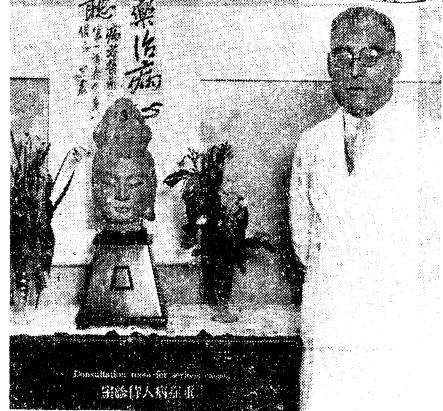
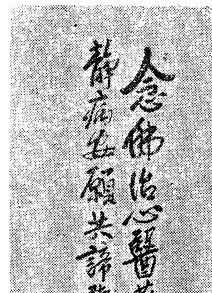
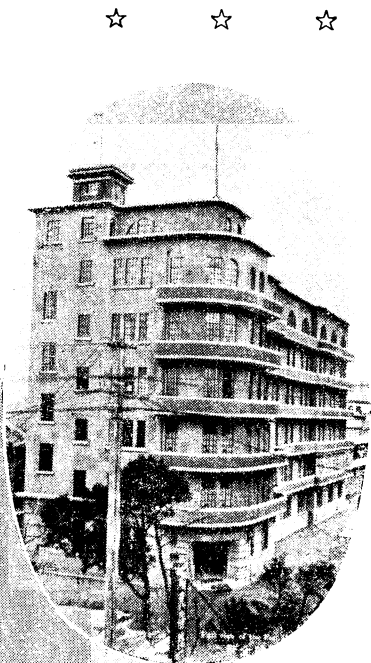
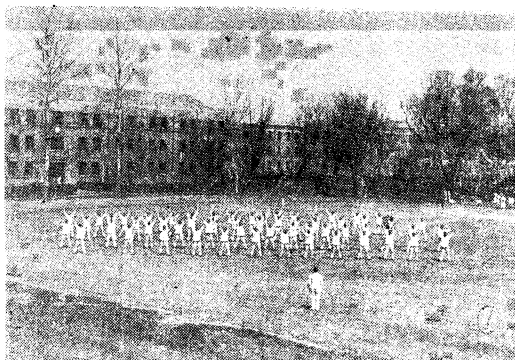
**聽講生 (申込順)**

氏名	職業	現住所
姜 大潤	漢方醫院助手	安達捨次郎(醫院庶務係) 四谷區伊賀町三三安達醫院内
宮尾 三郎	藥劑師	荒川區三河島一ノ二九九八
海老塚吉次	藥劑師	横濱市中區戸部町五ノ二〇四
井上 久男	藥劑師	横濱市中區戸部町四ノ一四四
堀野 喜英	漢藥商	芝區濱松町

三ノ三 相川 壽々(漢藥商) 豐島區司ヶ谷三ノ二八	田畑 虎三(無業) 杉並區堀ノ内一ノ二五	脇 涼 府下吉祥寺二六九〇ノ一淡水寮	金 石(漢藥請實業) 江戸用區遊井一ノ四四	崎 孝一(眼科醫代診) 大森區大森四ノ二五番地	大河内義之(會社員) 澁谷區上通一ノ二二	上野 畏平(官吏) 荒川區尾久町三ノ三一九	吉田勝太郎(拓殖大學學生) 長清(藥種商) 中野區桃園町三三	櫻庭 富作(商店員) 王子區王子一ノ一二ノ三小松國太郎方	沖野與三郎(鍼灸師) 本郷區丸山	黒田 治司(藥劑師) 本郷區丸山	福山町八牧要之助方	李 同 珪 向島區吾嬭町東七丁目五四	萩原金三郎(藥劑師) 麻希區北新門前町一	熊田 勇 澁橋區角管三ノ二〇	野上 和子(藥劑師) 茨城縣東茨城郡大貫町八	武井 嘉縣(和漢藥業) 下谷區三邊 耕藏(藥劑師) 澁谷區神泉十一	渡邊 錫(護岸部工夫) 深川區濱園町十番地	姜 敏 賢治(會社員) 赤坂區丹後町五二	板倉 てる(無業) 牛込區早稻田	藤卷町二〇一藤枝方	加藤 教雄(會社員) 豊島區目白町二ノ一五四二	大林 恒(藥劑師) 世田谷區北澤三ノ九九〇	中野 清古(鍼灸業) 澁谷區穆田町一ノ四	松本 茂(療術業) 小石川區同心町一	大草 義巳(藥種業) 横須賀市船越一ノ一九	千田 森男(陸軍々屬筆生) 牛込區赤城下町五三宇佐美方	林煥 德(電氣温灸治療業) 辻村 正三(藥劑師) 大森區池上洗足町二六七鈴木方	田中 泰達(醫師) 牛込區神樂町二ノ二二	谷山 直記(陸軍々醫學校軍醫) 澁橋區諏訪町五八	全 鳳 泰(無業) 澁橋區戸塚町一ノ一四三	中澤善右衛門(藥劑師) 豐島區池袋二ノ一〇四一	芦川 武友(製藥所所員) 本郷區駒込富士前町二三	高島康次郎(實業製造業) 京橋區小田原町一ノ一七、一	相澤 一雄(藥劑師) 豐島區池袋二ノ一六二	永田八四郎(小石川區書記) 小石川區竹早町六小島方	永井 龍子(藥劑師) 麻布區坂下町一	安 志 寅 澁橋區戸塚町一ノ五一	廣野 貞助(氣仙沼海洋少年團長) 中野區昭和通二ノ三五	垣崎 博(藥劑師) 深川區萬年町二ノ三宮田重雄方	柴田 守之(學生) 赤坂區青山南町六ノ五〇	中村米三郎(銀行員) 赤坂區新町一ノ十二藤本壽方	木下 行信(藥種商) 足立區千住大川町八六樽谷喜一方	沼田 岳二(醫師) 澁谷區代々木谷町二二一	下司 俊子(藥劑師) 杉並區馬橋一ノ三八	田中 知彦(理容術業) 王子區稻付町一ノ三七八	石井 公平(和漢藥卸小賣商) 城東區龜戸町三ノ二二四	山口 良平(藥種業) 二六頁(續)
---------------------------	----------------------	--------------------	-----------------------	-------------------------	----------------------	-----------------------	--------------------------------	------------------------------	------------------	------------------	-----------	--------------------	----------------------	----------------	------------------------	-----------------------------------	-----------------------	----------------------	------------------	-----------	-------------------------	-----------------------	----------------------	--------------------	-----------------------	-----------------------------	---	----------------------	--------------------------	-----------------------	-------------------------	--------------------------	----------------------------	-----------------------	---------------------------	--------------------	------------------	-----------------------------	--------------------------	-----------------------	--------------------------	----------------------------	-----------------------	----------------------	-------------------------	----------------------------	-------------------

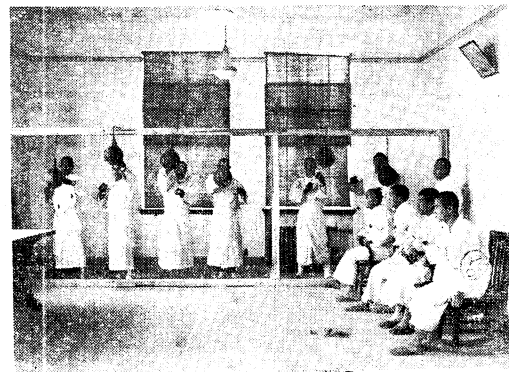
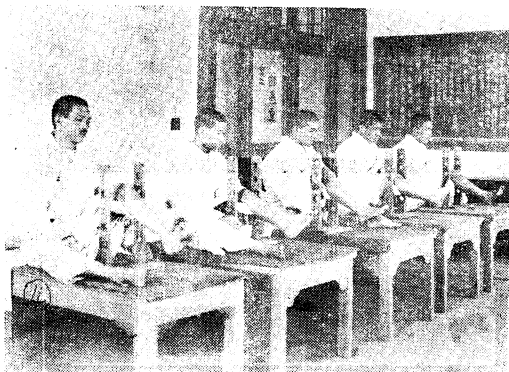
明 說 眞 寫

上五個の寫眞は北京盛華大學跡の骨接病院であります。戦勝による骨折を科學の粹をつくして治癒に向はしめ各種の運動訓練によりて快治して行く有様を示したのであります。(1)は全景、(2)上膊骨折(3)精神修養を兼て習字、(4)完癒に向ひたる下腿の運動訓練、(5)上膊を拳闘によつて訓練す。三好院長以下の涙ぐまき努力によりて昔は、切斷して終はなければならなかつた様な重傷の將兵が續々癒えて或は戦線に復歸し、或は家郷に凱旋しつゝあります。



明 說 眞 寫

下の寫眞は嘔宮寛博士によりて經營されて居る上海最大の病院福民醫院と博士博士は近代科學の粹を蒐めてこの大病院をすでに二十餘年にわたり經營されて居られ乍ら、併も支那に於ける醫療には漢方の研究を絶対に等閑にしてはならぬことを強調して居られます。



編輯後記

滿二ヶ月の間中支北支方面視察の旅を續けて居りました。小柳は去る五月二日新緑の東京へ歸還致しました。出發に際して盛大な御見送りを下さり、留守中も種々御配慮下さつた各位に厚く御禮申上ります。

視察報告の一部は前號及本號に發表致しましたが、紙面の都合上全部を發表出来ませんが、その結果が今後協會の具體的活動にも反映して來ることゝ存じます。

若し讀者各位で、大陸へ進出せんと雄圖を有せらるゝ向は、一度御問合下さい何かの御参考になることを申上られると思ひます。

五月廿日の例会では視察談を詳細發表の豫定であります。資料は斷片的のものしか集められませんでした。併し乍ら集めて來た資料で判斷出來得る程度なのを支那に於ける醫藥衛生の現況といふことになりませう。當日資料は全部供覽致し度考へますので、讀者諸君が奮つて御參會下さり大陸の實狀に關し認識を新にせられる様希望致します。

供覽の資料の消化方法についても各位の御希望を承り度いと考へます。開業免許證の下附等といふ點についても、現地に於ては私共が考へてゐるので開業規則の研究等も取扱ひ方によつては可成り面白い問題になると思ひます。

歸る勿々の編輯にて新聞ラヂオ等とも滿二ヶ月縁がありませんでしたこととて、皆様の御期待に外れたことと思ひます。今後大いに勉強致しますつもり、一層の御鞭撻をお願致します。